

米国財務会計基準審議会 (FASB) との第 15 回定期協議の概要

みやばやし あきひろ
ASBJ 専門研究員 宮林 明弘

1 はじめに

2013 年 10 月 15 日及び 16 日の 2 日間、企業会計基準委員会 (ASBJ) は、米国財務会計基準審議会 (FASB) との間で、第 15 回定期協

議を東京で開催した。ASBJ からは西川委員長、小野委員長代行、新井副委員長、小賀坂副委員長、関口委員の他スタッフが参加し、FASB からは Russell G. Golden 議長、Thomas J. Linsmeier 理事及び Susan M. Cospers テクニカル・ディレクターが参加した。

2 全体のスケジュール

日 時	議 題	主な内容
15 日 午前	ASBJ、FASB の各アップデート	
	概念フレームワーク	<ul style="list-style-type: none"> 純損益及びその他の包括利益と測定 信頼性 財務諸表の構成要素
15 日 午後	概念フレームワーク (続き)	<ul style="list-style-type: none"> 持分の定義及び負債と資本性金融商品との区別 財務諸表の構成要素の認識 表示と開示
	リース	<ul style="list-style-type: none"> 借手の会計処理 貸手の会計処理 リースの識別 借手の会計処理の実務上の緩和
	金融商品：マクロヘッジ	<ul style="list-style-type: none"> 現在 IASB で進行しているマクロヘッジのプロジェクトについて
16 日 午前	保険契約	<ul style="list-style-type: none"> 1 マージンか、2 マージンか キャッシュ・フローの見積り変更を即時に純損益で認識するか、マージンで調整するか
	のれん	<ul style="list-style-type: none"> のれんの会計処理に関する ASBJ スタッフの見解 のれんの減損及び償却に関する今後の作業

3 議事概要

(1) ASBJ・FASB アップデート

ASBJ 側からは、次の項目を中心に説明がなされ、意見交換が行われた。

- 日本の会計関連規則の枠組み
- 日本における国際財務報告基準（IFRS）に関する最近の動向（企業会計審議会から2013年6月に公表された「IFRSへの対応のあり方に関する当面の方針」の内容紹介を含む）
- 国際的な会計基準の改善に向けた取組み
- ASBJとFASBとの関係
- FASBと国際会計基準審議会（IASB）のMoUプロジェクトの状況（金融商品（減損）、リース、収益認識、開示フレームワーク等）

FASB 側からは、上述の項目の意見交換がなされる中で、米国の最近の動向についての説明がなされた。

(2) 概念フレームワーク

IASBは2013年7月18日に、ディスカッション・ペーパー「財務報告に関する概念フレームワークの見直し」（IASBのDP）を公表した。

IASBのDP上で検討されている項目のうち、主に次の項目の主要論点について議論を行った。

- ① 純損益及びその他の包括利益と測定
- ② 信頼性
- ③ 財務諸表の構成要素
- ④ 持分の定義及び負債と資本性金融商品との区別
- ⑤ 財務諸表の構成要素の認識
- ① 純損益及びその他の包括利益と測定

主に次の項目について、ASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

- 包括利益、純損益及びその他の包括利益の定義
- 2つの測定区分を使用する状況
- リサイクリング
- 純損益の質的特性

② 信頼性

2010年におけるIASBの概念フレームワーク及びFASBの財務会計概念書の双方の改訂において、有用な財務情報の質的特性のうちの1つである「信頼性（reliability）」が削除され、「忠実な表現（faithful representation）」という用語に置き換えられている。

本セッションでは、特に欧州において、「信頼性」の概念が削除されたことに引き続き懸念を表明する見解が示されていることを踏まえ、ASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

③ 財務諸表の構成要素

主に次の項目について、ASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

- 「現在の」義務
- 未履行契約

④ 持分の定義及び負債と資本性金融商品との区分

IASBのDPで提案されている負債と資本性金融商品を区分するためのアプローチは基本的には現行の財務諸表の構成要素の定義に基づいている。

本セッションでは、当該提案に関連する以下の項目について、ASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

- 狭い持分アプローチ
- 持分の中の各項目についての測定の見直し
- 売建プット・オプション

⑤ 財務諸表の構成要素の認識

財務諸表の構成要素の認識に関して、IASBのDPでは、現行のIASBの概念フレームワークの認識規準を変更する提案をしている。このセッションでは、当該変更の提案に関する

ASBJ スタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

(3) リース

2013年5月にFASBとIASBは共同で改訂公開草案「リース」を公表した。ASBJは、2013年9月に当該改訂公開草案に対するコメント・レターをFASB及びIASBに提出している。

本セッションでは、ASBJのコメント・レターに基づき、当該レターに記載してある項目のうち主に次の項目について意見交換をした。

- 借手の会計処理
- 貸手の会計処理
- リースの識別

また、さらに、2013年9月の会計基準アドバイザリー・フォーラム(ASAF)の会議のリースのセッションにて、借手の使用権モデルの範囲を限定的にすべきという見解があったことを踏まえ、考えられ得る借手の会計処理の実務上の緩和のあり方についても意見交換が行われた。

(4) 金融商品 (マクロヘッジ)

IASBは、マクロヘッジ活動に関する会計について2012年5月以降審議を進めており、これに関するディスカッション・ペーパーを2013年の第4四半期に公表することを予定している。

本セッションでは、現在IASBにて審議が進められているマクロヘッジ活動の会計について、ASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

(5) 保険契約

FASBとIASBは、共同で保険契約プロジェクトを進めることを決定し、審議を重ねてきた。その結果、FASBは、2013年6月にASU案「保険契約 (Topic 834)」を公表し、また、

IASBも同月に改訂公開草案「保険契約」を公表した。双方の提案は多くの部分で共通しているが、依然として保険会計モデルの中心的部分で基礎的な相違点がある。保険会計モデルとして、前者は1マージン・アプローチ(リスク調整を区分せず、単独のマージンとする)を、後者は2マージン・アプローチ(リスク調整を区分して、残額を契約上のサービス・マージンとする)を提案している。また、保険契約に係る将来キャッシュ・フローの見積りの変更について、前者は即時に純損益で認識する処理を、後者は契約上のサービス・マージンで調整する処理を提案している。

本セッションでは、これらの相違点についてASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

(6) のれん

本セッションでは、企業結合の会計基準におけるのれんの要求事項に対するASBJスタッフの見解が説明され、意見交換が行われた。また、以下の項目を含む、のれんの減損と償却に関する今後の作業について説明がなされ、これについても意見交換が行われた。

- ASBJ、欧州財務報告諮問グループ(EFRAG)及びイタリアの会計基準設定主体等によるのれんの減損と償却に関する作業計画
- IASBの企業結合会計基準に関する適用後レビューへの関与
- ASU案「無形資産一のものれんその他(Topic 350)：のれんの会計処理(非公開会社協議会の提案)」についての、公開企業へ影響

4 次回の予定

今回は2014年上期に米国ノーウォークで開催することが予定されている。